

## カートリッジシリンジ

### 【形状・構造及び原理等】

形状：

#### 非吸引式（カートリッジシリンジ）



#### 吸引式（アスピレーティングシリンジ）



材質：バレル；真ちゅう  
プランジャー；ステンレス鋼

### 【使用目的又は効果】

プレフィルドカートリッジ及び滅菌針を用いて歯科用局所麻酔薬を投与するために用いる歯科用器具である。

### 【使用方法等】

#### 非吸引式（カートリッジシリンジ）

1. 使用前に滅菌する。（高圧蒸気滅菌／各医療機関により検証され確認された滅菌条件による。例 132℃ 15 分～20 分間）
2. プランジャーを一杯に引きバレルを横に倒し、カートリッジをバレル後部から装填する。
3. 歯科用注射針（ねじ山式針基）を装着する。患者に刺入する前に必ず液を数滴滴下させる。
4. 注射を行う。
5. 注射終了後、歯科用注射針とカートリッジを取り外す。

#### 吸引式（アスピレーティングシリンジ）

1. 使用前に滅菌する。（高圧蒸気滅菌／各医療機関により検証され確認された滅菌条件による。例 132℃ 15 分～20 分間）
2. プランジャーを一杯に引くか、バレルをプランジャーから取り外して、カートリッジをバレルに装填する。プランジャー先端の鉤をカートリッジのゴム栓に確実に食い込ませる。
3. 歯科用注射針（ねじ山式針基）を装着する。患者に刺入する前に必ず液を数滴滴下させる。
4. 針を刺入し、吸引を行う。吸引の結果を観察し、血液の吸引がないことを確認した上で注射を行う。
5. 注射終了後、カートリッジのゴム栓から鉤を外し、歯科用注射針とカートリッジを取り外す。

#### 「使用方法等に関連する使用上の注意」

- ・本品に接続する歯科用注射針及びカートリッジの添付文書等を確認後、使用すること。
- ・本品と適合しない歯科用注射針及びカートリッジは使用しない

こと。

- ・使用目的に応じた歯科用注射針を選択し、接続すること。
- ・あらかじめ嵌合部に緩みがないことを確認してから使用すること。また、使用中は定期的に緩み、外れがないことを確認すること。
- ・強く圧力をかけずに、できるだけゆっくりと注射すること。骨膜下への強圧注射は組織の損傷、又はカートリッジの破損、あるいは液漏れにつながる恐れがある。
- ・歯科用局所麻酔剤で金属を侵す性質があるものは、長時間歯科用注射針やシリンジに接触させないこと。
- ・歯科用注射針を外す際、誤刺を防止するため専用の処理容器等を利用すること。
- ・歯科用注射針をリキャップする必要がある場合、誤刺を防止するためリキャップ保護具やスタンド等を用い注意して行うこと。

### 【使用上の注意】

- ・使用前に必ず製品の点検、洗浄・滅菌（【保守・点検に係る事項】参照）をし、異常が確認された場合使用しないこと。
- ・防錆に寄与する不動態皮膜形成に大きく影響するため、初めて使用する前の洗浄後の乾燥工程には充分時間を取ること。
- ・折損、破損等の原因となるので、本品に対する曲げ・切削、打刻（刻印）等の二次的加工（改造）は絶対に行わないこと。
- ・破折等の原因となるため、強い衝撃を与えないように丁寧に扱うこと。
- ・長期の使用により金属疲労や磨耗等の劣化が生じるので、適宜交換すること。
- ・【使用目的又は効果】の項に記載の用途以外には使用しないこと。
- ・歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- ・廃棄の際は感染防止に留意し、関係法令及び各自治体の指導に従った安全な方法で適切に処理すること。

### 【保管方法及び使用期間等】

- ・水分（水濡れ）、腐食性薬剤及びその蒸気の暴露を避けて、外圧（物理的負荷）及び汚染を受けない清潔な場所に保管すること。
- ・滅菌済みのものを貯蔵・保管する際、汚染を防ぐため清潔な場所に保管をするとともに、有効保管期間の管理をすること。
- ・「もらいさび」を防ぐため、錆びている器具と一緒に保管しないこと。
- ・接触腐食を防ぐため、材質の異なる金属製器具どうしは保管時に接触させないこと。
- ・歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理すること。

### 【保守・点検に係る事項】

- ・使用前に必ず点検し、本品に破損、磨耗、腐食（錆）、変形等が確認された場合、使用を中止し廃棄すること。
- ・洗浄または消毒する際は、感染予防のためゴム手袋、保護メガネ、マスク等を着用すること。
- ・機器に付着した血液、体液、及び薬品等は、乾燥・固化する前に流水による洗浄、洗浄液等への浸漬等により確実に除去すること。特に先端ネジ部の溝は、ブラシ等を用い十分洗浄すること。
- ・プランジャー先端の鉤部は鋭利なため、洗浄、消毒の際は注意すること。
- ・汚染除去に用いる洗剤は、洗浄方法に適したものを選択し、適正な濃度で使用する。
- ・塩素系、ヨウ素系、強アルカリ性、強酸性の洗浄剤や消毒剤は、腐食の原因になるので使用を避けること。
- ・接触腐食を防ぐため、材質の異なる金属製器具どうしは洗浄時及び滅菌時に接触させないこと。

- ・金属たわし、クレンザー（磨き粉）等は、器具の表面を損傷し腐食の原因となるので使用しないこと。
- ・洗浄装置（超音波洗浄装置、ウォッシャーディスインフェクタ等）で洗浄する際、器具どうしが接触して損傷することがないように注意をすること。
- ・洗剤の残留がないよう十分にすすぎを行うこと。仕上げすすぎには、浄化水（濾過、蒸留、脱イオン化等）を用いること。
- ・分解できる器具は分解して洗浄すること。再度組み立てた際、正常に動作することを確認してから滅菌すること。
- ・腐食、変色、シミ等を防ぐため、保管期間の長短にかかわらず洗浄した後は直ちに乾燥すること。
- ・滅菌する場合、高圧蒸気滅菌（各医療機関により検証され確認された滅菌条件による。例 132℃ 15 分～20 分間）をすること。
- ・セットまたは包装は、関連器材の仕様を熟知して行うこと。
- ・完全に乾燥していることを確認してから保管（【保管方法及び有効期間等】参照）すること。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】\* \*\*

製造販売業者：フィード株式会社  
商品インフォメーションデスク  
電話 0120-004-504

製造業者：オーサン エムエヌディー カンパニー リミテッド  
(OSUNG MND CO., LTD.) (大韓民国)